

秘密の夜会



FOR ADULT ONLY

秘密の夜会



ヤマトは姫殿下の下で
平定され 戦後の
混乱も治まりつつある

オシユトルとしての
自分の役割も
終わるだろう



よし！
旅に出よう



仮面がちと
邪魔だが
ま、なんとか
なるだろう

いい年こいてからの
自分探しの旅も
悪くはないしな



また何が変なことを
考えているのです

オシユトル

ちよつと
兄様……

いや……
まさかそんなこと
あるわけないで
あろう

国が大変なときに
何かやるつもり
ですか

ヤベエ
顔に出ていたか
仮面をしてるのに
なぜわかる

ないと……
いいな
うん

オシユトルよ
お前の妹
ちよつと
コエえよ……

その夜

早速

決行!



したはずが

・・・なんだ
この状況は？

まったく
思い出せないのだが





よしよし
今ならウルウル
サラアナも居ない
抜け出すのは
今だな・・・

確か 某は・・・



ん
おお

オシユトルでは
ないか
どうしたのだ
そんな格好で



不審者がおるわ
宮中に盗みとは
不遜なやつじゃ

いきなり
見つかった



このような
夜中に姫殿下
こそ いかが
なされたのですか

えっと
いやなちよつと
用を足しにな
・・・

酒つぼを
かかえて
ですか？

まあ オシユトル
ならいいかの
実はの
これは・・・

先日 クオンが
こそこそ
隠しておった
ものを・・・

悪いことは
言いませぬ
早く返してきて
ください

これまでの経験上
クオンのも落ち物に
手を出してロクな
ことになったためし
がない！

さあ
早く！

し
しかし
オシユトルよ
興味はないのか？

きつと
うまいと思うの
じゃが・・・

うっ
それは
そうですが



ヤマトの顔でも
あるお二人が
なにをしているの
ですか！

兄様！姫殿下！
さつきから見ていると
まさか酒の盗みとは



某はオシユトル
だぞ
厳肅に行動
せねば

いや
だめだ！

ゲエ
ネコネ！



見苦しい言い訳は
おやめください姫殿下
子供ですか！



そ そうだぞ
余は偶然拾った
この酒を持ち主に
返そうと・・・



姫殿下を使って
酒を持って
こさせるとは

言語道断
なのです

待て ネコネ
某は偶然ここに
いたただけでつ

うぐぐっ

兄様も
そんな変装して
明らかに共犯
ではないですか

そうだった
すっかり目的を
忘れていた

しかし
今となつては
抜け出すこと
など不可能

せつかく
手に入れた
上物を手放す
のはおしい

変装の理由
など説明
できるはずも
ない

と
なれば

なにより
負けた気が
するのじゃ

ぐえ

カッ

逃げー

絶対に
逃がさないのです



こんな人気のない蔵に酒を隠すなんて姉様らしくないのです

よほど他人に飲まれたくない酒だったのだろう

ところでネコネよ



これでネコネも共犯なのじゃ

横暴なのです!



ふぶふう!

なんです

えい



やっぱりうまいのじゃ

フハッ

いや 某を睨んでもな...ネコネ



うまかったかのう?

どうだ

ホケホケなにをするのですか

味なんてわかりませんよ

ネ
ネコネ?

（おこ）



どうした
のだ……

兄さまあ
体がなんだか……
熱くて……
もう



ただの
酒だったの
だろっ？



ふう
あついのう
服などいらぬ
わ

ほれ オシユトルも
呑んでみい
うまい蜂蜜酒
じゃぞ



ちよ
姫殿下
某は……

心配するな
三人で仲良く
叱られようでは
ないか



んん

あの酒

それから
どうなったのだ
まったく思い出せん

すくなくとも
正常ではない
のは確かだ

オシユトル
手が止まっつて
おるぞお

殿下ばかり
ズルイのです
兄様はわたしの
兄様なのにい

ほれ もっと
ぞくぞくするやつ
やるのじゃ

ネコネまで
なにを
言っている

お子様ネコネは
黙って見ておれ
余とオシユトルの愛の
カタチをな

んなッ
わたしは十分
大人なのです！
オトナノイトナミ
も十分理解して
いるのです！

ならば某の手で
先にイッた方が
お子様だとして
はいかがか？

どっちもどっち
だろうに
おマセアピール
全快だな おい

なにを言って
いるんだ
自分！



今まで散々
よがりまくって
いたのに
よく言うのです

ンフフ
オシユトルの責め
を耐え切れればよい
のじゃな？
楽勝じゃ！



殿下ほど
あぁあ
あにさま
では



それは
そなたとて
同じ……では
ないか……あッ
ンンッ

んんッ
だそこは
めえは
・
・

同じトコロを
責めてやらないと
不公平であろう？

あにさまあ
そこんなに
あう・すらに
・られたら

くう
ひやう

尻尾を使う
なんてえ

くっ

ああ

ももう
ダメなの
じゃ

んんああああ

ふあああ

にやああ



おいおいおい
まだやる気
なのか 自分!

ネコネ まだ
終わっておらぬ
ぞ

あ・・・
あにさま?

あ

ああ

これからが
本番ではないか



ひゃっ

兄様のが

これが
兄様の・・・

入って

ずんずん

ずんずん

兄様のが
わたしの中に
いっぱい・・・

思ったより
入るもの
だな

動くぞ
ネコネ

はい
です 兄様

ぬ
ぢ

ず
じ

あつ

痛いはずなのに
嫌じゃないの
です・・・

あう

兄様
熱い！

あそこが
熱いですう

ぬ
ぢ

ズ
ジ

ちから
はいらない

ズク
ズク
ズク

あにさまあ
もうダメえ

ふあああん

やあああああ

ズク
ズク
ズク

ああ
中に
いつぱい

オシユトル
今度は余の番
なのじゃ

おまたせ
しました殿下
もうすっかり
出来上がって
いるようですね

もう
ガマンできぬ

手間は
ようせぬ
はようせぬ
い

自分で股を
開くなどすこし
はしたないですな

よいではないか
今更恥も
なにもなからう



ふあああああ
太いのがあ

では殿下
本番といきま
しよう

すず

ぶいっ

まだ半分も
入っておりま
せぬが



では
いきますよ
殿下

ネコネだつて
全部銜えこんだ
のじゃ
余だつて...

一気にくる
のじゃ
オシユトル



くさくさ
ずさずさ

ぬさぬさ
なんじや
揺れておる

んっんん

お
オシユ

目が覚めましたか
殿下

・・・トリユ?

ぐわぐわ

ぬさぬさ

オシユトルばかり
楽しんでズルイ
のじゃ・・・

もうなにが
なんだか

かなりなじま
れた様ですが

わからぬが
・・・

余はただの
おもちゃでは
ないか・・・

さすがは
天子アンジユ
へこたれない
なあ

これからは
余の時間じゃ

もう遅れは
とらぬ

ほう
いいますな
殿下

—じゃなくて
これ以上はマズイ
だろおー!

余も負けぬよう
気合を入れねば

余を楽しませよ
オシユトル



殿下
そろそろ
果てそうです

ぐほぬき

好きじゃ
オシユトル

じゃから
一緒に……

オシユトル
余もいつしよじゃ



くあああ

あああ

ドム

コボ

なんでこんなことば
なんでこんなことに
なんでこんなことに
なんでこんなことに
なんでこんなことに
なんでこんなことに

どうしてこうなった
どうしてこうなった
どうしてこうなった
どうしてこうなった

起こったことを
気にしても
仕方なからう

ケラ
ケラ

クオンが隠した
理由がこれか……
危険すぎる

このことが
外部に知れたら
と思うと……

余は楽しかったぞ
オシユトル
またやろうではない

姫殿下はすこし
黙っていてください
なのです

よし
旅に出よう

あ
いいですね
それ
ネコネも
同行するです
兄様

余も
余も
いくのじゃ

姫殿下は
留守番
なのです



あれえ

隠してた
超強力媚薬入り
蜂蜜酒がなくなってる

いざというときの
ために作っておいた
のに・・・！



その話
もっと詳しく

いざというの
はどんなときなの
でしょうか？



もー
お行つたは
かなこシユ
かどオ

さあ

さあ

さあ

さあ

フルフル

へっぼし

END.

うう
恥ずかしかったのです



帰ってきた皇様 -おとーよん-

エツ
クオン
いないの？

男追いかけて
旅に出た？

せつかく
熱い抱擁を
楽しみにしてた
のに……

そうだ！
アルルウは？
アルルウはどこだ！

あー
それがですがね
カミュと一緒に
物見胡散の旅に……

お嬢を追って……

兄者
気持ちはよおーく
わかるぞ
ああ わかる

あんの
男は……
娘まで……

ガクッ

ハクオロさん
ハクオロさん
もうひとりくらい
作ってもいいですよ

ね



奥付

秘密の夜会

サークル

感味屋真黒

くろよろず

jhqhf058@ybb.ne.jp

発行日

2016年12月31日

印刷

しまや出版 様

感味屋真黒